

特42

834

繪本宮本二万傳 全



不謀難
遁無道

官吾

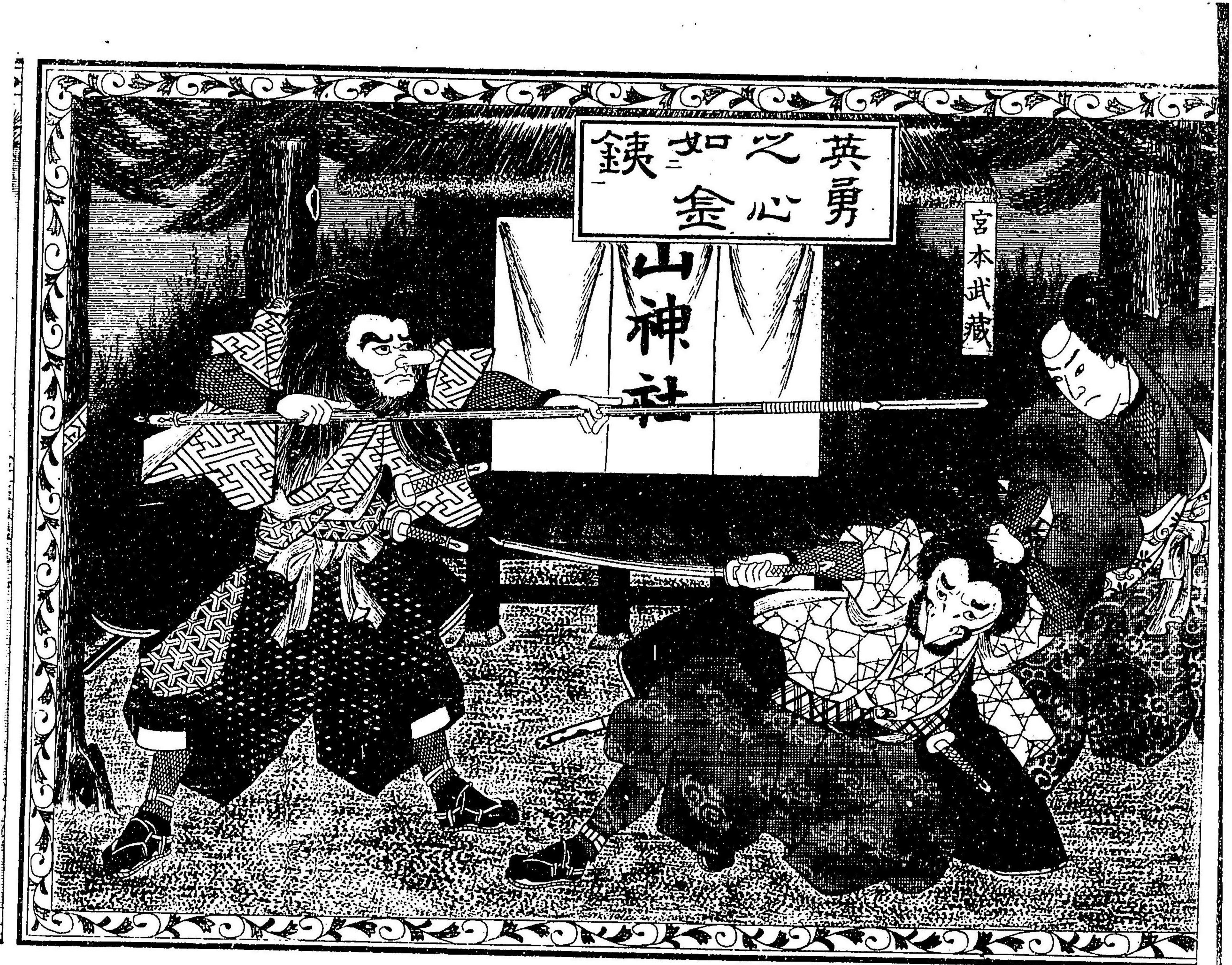
吉岡



心史
復行

錦耕堂





鍊鍊 英勇 之心

山神社

宮本武藏





武藏

吉岡太郎左門と云ふ流石極め高流の
 師範あり人の三男も友次郎と云加藤
 一家の臣宮本武左門の養子とする兄
 大太郎といしが世三才の頃病死を父
 吉岡門弟佐々木官吾といふいふいふ
 者のいふまじ討めありいふいふ吉岡の
 家断絶と母いれがら病死友次郎
 この報せきく大いあるげに
 一家の養子とありける



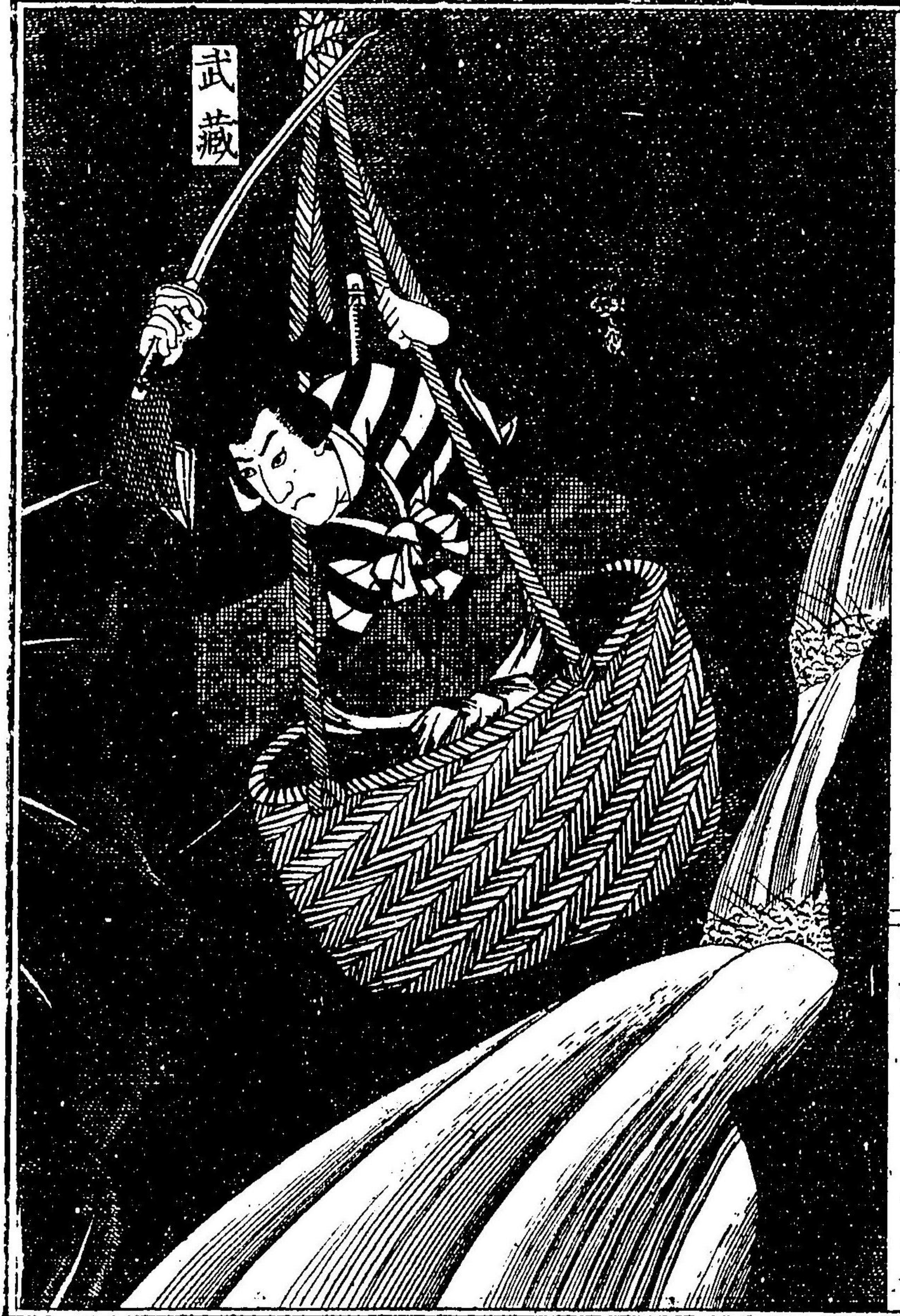
武藏

白倉



身ものゝかひもなし
 たんごん居るを武を門其
 心中より主君清正公へ言上を
 けふ有無どののゝるにぞ友次郎を
 召し武術をくらされふ天晴の勇士
 るりは感ありては暇をさるる宮本親
 子よりこの名を武藏と改め國を立出で

必



敵官者とて
 と筑前豊前と所
 と巡り大坂より東
 海道と関東下り陸
 奥出羽とあらはさざりし
 竹武藝者と試合なむとい
 ども二度もかれせとらび武藏
 刀とつふことと風神免二刀
 流号くこんり再び中国へ赴んとて深山を
 遊行し猛獸且ハ怪物み出會ふとて備前國

宮本



○ふ師範あり
こふの試合を
いせお百倉と
めりつれの武藏
をぶのひし
藏をかく請じ
まののこ
まのう唇
まのい
ま此家の
娘浴
衣を
工次

宮本

九



宮本



巖流

持出ウヤを見みま
 のふとこれ思入るれ
 あつく礼どの風呂場案
 内ゆる武蔵の風呂入り
 くるふ戸棚風呂みて入りて戸を
 くとけふみとひより執湯をま
 じりぬるへこの謀れと
 湯殿をけやぐりかとり出
 柱を引ぬき門人七八人を
 打く白石鎗をもち



飛りて
 此時娘
 の衣をい

の大小
 を持来
 りて裏道
 より若狭路へ
 落其身へ自害
 あけの武蔵の難
 どのれ其夜山中
 の辻堂へ休むけるふ
 悪者も娘をつれ来り
 女淫るさんと武蔵之で
 往々て木曾の山中ふ
 立ち出東山道ふ赴くと
 立ち出東山道ふ赴くと
 立ち出東山道ふ赴くと



武藏



路とて
 まさか
 へんれうま
 うあゝふ明の尺八
 けらぬいそぎ行
 おとつれ
 首信しふ六十余り
 の公羽のありふてうの
 とあつとぬうて書
 りろ
 薄ありふふ木太乃の
 けりてあり武藏のんきんか
 泊と頼けるふ心よき引受
 十一

堅め其方山の物語り武藏思ふや此翁一流さま
 也人自ら傍の木カサを打てり火箸を以て受
 又打之鎧をみかきりてまひをんとおたれども少
 り武藏飛去平伏して不礼に詫言を問ふ佐原晋三
 あり故ぬ師弟の約を却まが釧道軍法の指南をけ
 次の年とて立出佐原の意見本考さび九州の方起き
 扱と佐々木官吾津の國の上里本を自ら修行て
 へこの釧法之自得し
 此所立出佐々木官吾津
 故為流舟
 今流舟武
 筑前福岡の
 一を来りふら
 家の梅り
 福園主
 此翁と助てのこの正者
 止り道
 場之開き
 願出ける本双方流一の博多灘
 其の門衆
 其の其名
 其の於て仇討と定り已亦其言とあり



武藏

流

劍

川

城

藏

流

流



嚴流

宮本



武藏

明治廿五年五月廿三日印刷
 日本橋区馬喰町三丁目九番地
 著作兼発行者 荒川藤兵卫
 印刷

